

この冬、
下関がミュシャ色に染まる

ミュシャ展

アール・ヌーヴォーの女神たち

2026 11.28 SAT >>> 2027 1.24 SUN

【開館時間】
午前 9 時 30 分～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）

【休 館 日】
月曜日（祝日の 1 月 11 日は開館）、年末年始（12 月 28 日～1 月 1 日）

【観 覧 料】
一般：1,800 円、大学生：1,400 円

- 18 歳以下の方、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の生徒は無料
- 下関市内在住の 65 歳以上の方は半額
- 身体障害者手帳、精神障害者手帳、療育手帳、戦傷病者手帳（障害の程度が項症）をお持ちの方は無料

公式ウェブサイト、各SNSでも情報発信中！

主　催　下関市立美術館、読売新聞社、KRY山口放送
企画制作　アール・ヌーヴォーの女神たち実行委員会
協　力　OGATAコレクション

Shimonoseki City Art Museum
下関市立美術館
山口県下関市長府黒門東町 1-1　Tel.083-245-4131

Mucha Exhibition:
Goddesses of Art Nouveau

時代を超えて、今もなお愛されるアルフォンス・ミュシャの作品。世界有数の作品所蔵数を誇るOGATAコレクション協力のもと、代表作を含む約150点の作品を展示します。そして、高精細プロジェクターによる映像空間では、19世紀パリの街並みに飛び込んだような世界観の中を、ミュシャの描いた「女神たち」がダイナミックに躍動します。



実物作品 × 映像空間

Art works

第1章　麗しの女神

1895年、フランスを代表する女優サラ・ベルナールが主演する演劇「ジスモンダ」のポスターを手がけたミュシャは、魅力的な女性像により一躍脚光を浴びることになりました。やがてポスターを収集する愛好家まで生まれ、「装飾パネル」というジャンルさえ登場しました。

第2章　暮らしの彩り

豊かな色彩の印刷物は、パッケージ、ポストカード、カレンダー、メニュー表などに展開され、人々の暮らしを彩りました。商業的な人気にとどまらず、1900年のパリ万国博覧会で受賞するなど、ミュシャは国内外で揺るぎない地位を確立しました。

第3章　スタイルの美

下積み時代から生計をたてるために始めた挿絵の制作は、人気作家となってからも続けられ、ミュシャの晩年まで続くいわばライフワークとして、重要な位置を占めています。ミュシャ・スタイルの見本帳とも言うべき『装飾資料集』は、デザイナーやデザインを学ぶ学生の手引き書として広く流通しました。



1


2


3

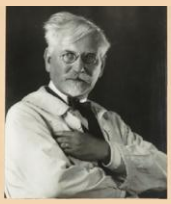

4


5

1.《ジスモンダ》1895年 カラーリトグラフ
2.《ランスの香水ロド》1896年
3.『装飾資料集』より《ケシ科の植物の実用的なデザイン案》1902年、カラーリトグラフ
4.《パリのシンボル（絵皿）》1900年、陶器
5.《夢想》1897年、カラーリトグラフ
6.《スラヴ叙事詩展》1928年、カラーリトグラフ　作品はすべてOGATAコレクション所蔵

Alfons Maria Mucha

アルフォンス・ミュシャ
（1860-1939）


画像提供 OGATA コレクション

現在のチェコ共和国に生まれる。ミュンヘン美術アカデミーに学んだのち、パリに出て、アカデミー・ジュリアンに入学。人気女優サラ・ベルナールのポスターが有名になり、アール・ヌーヴォーを代表する作家となる。1900年、パリ万博のボスニア＝ヘルツェゴビナ館のデザインを担当し、銀賞受賞。アメリカ滞在を経てチェコに帰国し、ズビロフ城をアトリエとする。1911年、《スラヴ叙事詩》シリーズの制作を開始する。1918年に建国したチェコスロヴァキア共和国の国章、郵便切手、紙幣をデザインする。1928年、《スラヴ叙事詩》全20点をプラハ市に寄贈。1939年、プラハにて逝去。

第4章　祖国と名声

1910年、ミュシャは故郷チェコに戻り、本来やりたかった画家としての活動に着手します。同時に、祖国のための公的な仕事や、紙幣や切手のデザイン、さらに地域の催し物や独立を祝うポスターなど、祖国とスラヴ民族の発展を願った仕事を多く引き受けました。作品には伝統的な衣装を身にまとった女性たちが多く登場します。


6

Events 関連催事

1. コレクター尾形寿行氏によるトーク
日時：2026年11月28日（土）13時00分～、29日（日）11時00分～（約1時間）

2. ギャラリー・トーク
日時：2026年12月5日（土）、2027年1月7日（木）13時00分～（約1時間）

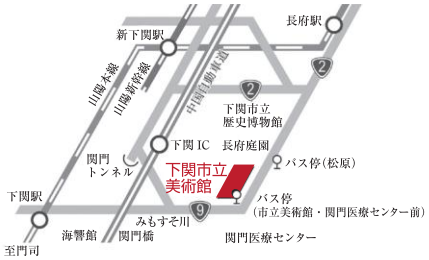
3. 簡易リトグラフ講座　【要事前申し込み・抽選】
日時：2026年12月6日（日）13時00分～16時00分
場所：下関市立美術館　造形室
講師：原野啓次氏（画家）
内容：アルミ版を使い、2色刷りのリトグラフ作品を作ります。
対象・定員：中学生以上の一般の方・12名
参加費：2,000円
申し込み：下関市立美術館に来館、電話もしくは応募フォームにより11月9日（月）までに要申込み。11月16日（月）を目途に、抽選結果を通知します。

4. ショート・トーク
日時：会期中の毎週水曜日　10時00分～、14時00分～　各日2回（15分程度）

5. イラスト作品募集
内容：ミュシャの作品から着想したイラスト作品を募集します。審査結果は美術館公式ウェブサイト上で公表します。作品は会期中美術館内に展示します。応募の方法等、詳細は美術館ウェブサイトをご覧ください。

【1、2、4の会場および参加の条件】
特別展展示室にて。参加は無料ですが、当日の特別展観覧受付が必要です。

Access 交通のご案内



バス（サンデン交通、「市立美術館前」または「市立美術館・関門医療センター前」下車）
●JR下関駅東口（1、2番乗場）から長府、小月、宇部方面行で約20分
●JR新下関駅（3番乗場）から城下町長府経由「マリンランド」行、または「下関駅」行で「松原下車」約25分
●JR長府駅から「長府駅」または「長府駅前」バス停（国道2号線）から「市民病院」行、または「下関駅」行で約15分

自動車（国道9号線沿い、関門医療センター向かい）
●中国自動車道「下関IC」から下関市街方面に出て、壇之浦方面に進み、国道9線合流点を左折後、約5分

Shimonoseki City Art Museum
下関市立美術館
山口県下関市長府黒門東町1-1　Tel.083-245-4131